

科目名	心理的アセスメントに関する理論と実践	副題	
担当者	宮森 孝史・筒井順子		
開講期	前期	単位数	2単位
		配当年次	1年
授業の概要	この授業では、心理支援専門職にとって必須の知識・技術となる心理的アセスメントの理論と実践的適用について学ぶ。具体的には心理的アセスメントの意義と理論的背景、心理に関する相談、助言、指導等での適切なアセスメント活動である。アセスメントに使用される各種心理検査、面接技法を目的に合わせて組み合わせること（バッテリー化）とその実施、結果の解釈と報告書の作成まで独力で出来ることが求められる。		
授業のねらい・到達目標	1. 学部で身に着けた各種心理検査、面接の基本的技法のスキルアップを目標とする。 2. 当該事例に合わせて検査バッテリーを組み、実施後の結果の整理と報告書の作成ができる。		
授業の方法・授業計画			
1	心理実践場面における心理アセスメントの役割と進め方		
2	心理アセスメントに有用な情報及びその把握の手法について		
3	心理に関する支援を要する者等に対して、関与しながらの観察について		
4	心理検査の種類、成り立ち、特徴、意義及び限界について		
5	心理検査の適性及び実施方法を学び、正しく実施し、検査結果を解釈することについて		
6	生育歴等の情報、行動観察及び心理検査の結果等を統合させて、包括的に解釈をするためのスキル		
7	適切に記録、報告、振り返り等を行うために		
8	報告書のまとめ方		
9	心理アセスメントから治療介入への移行について		
10	保健医療分野における事例の心理アセスメント		
11	福祉分野における事例の心理アセスメント		
12	教育分野における事例の心理アセスメント		
13	司法・犯罪分野における事例の心理アセスメント		
14	産業・労働分野における事例の心理アセスメント		
15	ケース検討会議での発表の仕方とチーム・アプローチのあり方を理解する		
期末			
授業に関する連絡	毎回、終了前10分で授業についての質問、コメントを求める。他の受講生と疑問点の解消を共有し、次回に臨む。		
評価方法及び評価基準	実践分野を任意の一つ選択し、想定事例を考え（20%）、心理アセスメントの手続きの作成（30%）、実施、結果の解釈（30%）から、介入手続き（ゴール）設定（20%）までをまとめたレポートを作成し提出する。それらを基に評価する。		
事前・事後学習の内容	実践実習に係わる授業のため、事前・事後の内容は相互に関連することとなる。事前学習では、前回の授業内容を十分復習して授業に臨み、事後学習では一連のアセスメントの流れの中での現在の位置づけを確認し、次回に臨むこととする。		
履修上の注意	全講義に出席のこと。		
テキスト	以下の参考文献を中心に適宜指示する。		
参考文献	八木亜紀子（著）「相談援助者の記録の書き方—短時間で適切な内容を表現するテクニック」、中央法規出版、2012年 近藤直司（著）「医療・保健・福祉・心理専門職のためのアセスメント技法を高めるハンドブック（第2版）」、明石出版、2015年 小海宏之（著）「神経心理学的アセスメント・ハンドブック」、金剛出版、2015年 津川律子（著）「精神科臨床における心理アセスメント入門」、西村書店、2009年 「臨床精神医学」編集委員会（編）「精神科臨床評価マニュアル（2016年版）」、アークメディア、2016年		